



がんばれ国境の島対馬 ふるさと応援基金活用事業

平成20年10月からスタートした対馬市の「ふるさと納税制度」も5年目に入りました。寄付者の皆さまからいただいたご寄付は基金として積立てており、平成23年度からはこの基金を活用して事業を行っています。

今回は、昨年度(平成24年度)の取り組み内容をお知らせします。

平成24年度実施事業



今回購入された本。対馬のエトピリカ文庫が益々充実しました。

事業名:エトピリカ文庫図書購入事業

基金充当額:99,906円

(施策区分⑦:市長が特にふるさと対馬の将来に向けて寄与すると認める事業)

施策区分⑦の中で、「エトピリカ文庫購入」のためにご寄付をいただいた寄付金を使って、つしま図書館に図書を購入しました。

日本や世界の様々な境界研究にかかわる図書や文献などを集めたこの文庫は、国境離島に暮らす対馬市民に貴重な情報を提供するとともに、同じ国境地域に暮らす人々と情報を共有するためのネットワークを築く役目も果たします。

※エトピリカ文庫とは・・・『北方領土問題・4でも0でも2でもなく』(中公新書)により第6回大佛次郎論壇賞(2006年:朝日新聞社)を受賞した拠点リーダー岩下明裕氏が、根室市に行った寄付をもとに、2007年に「ニ・ホ・ロ(北海道立北方四島交流センター)」に設置された文庫です。エトピリカとは、千島列島や根室地域で境界を越えて飛び回る海鳥であり、その名称とロゴには、北方領土問題の解決と日ロ間の国境が自由に往来できる日を待ち続ける地元のみなさんの思いが込められています。文庫にはロシアに関する文献のみならず、様々な日本の境界地域の書籍も収められています。2010年11月、対馬での国境フォーラム開催を契機に文庫が設立されました。

※平成24年度実施予定だった「島内事業者の企画開発力の向上に対する事業」は諸事情により実施が見送られました。

平成25年度も活用事業決定!

ふるさと納税で集まったご寄付を使って行う事業は、各課から選ばれた審査員に対して事業提案者がプレゼンテーションを行い、質疑応答と審査を経て、一定基準を満たした事業のみが採択され、実施されます。

平成25年度は1件の事業(414,000円)が採択されました。これからも寄付者の皆さまの意向に沿った事業へこの基金を活用し、地域の特性や地域資源を活かしたまちづくりのために活かしていきます。



庁内プレゼンテーションの様子。事業内容はしっかり議論されて決定・実施されます。この審査会は庁内研修の場としても非常に有意義な機会になっています。